

やはりきみは何実に入るのが よろひかるう

こうなったら何が何でも

吉田寮を大規模補修してやる実行委員会代表

萩原不避歩

私は、吉田寮が好きだし、その魂の容れ物たるこの建築物もこよなく愛している。君は、この建物でもって、100年前の人間と繋がる。私はそんな奇跡がこれからも続くべきだと考えている。その思いは、独りよがりか。

これ書いてる今現在で、吉田寮開設まで 1299 日。吉田寮は、2013 年 9 月 13 日をもって、とうとう開設 100 周年を迎える。遠い 2015 年を夢見て、汎用人型決戦兵器と惣流さんにめろめろだった中学生時代を考えると、随分生きた。

昨年 9 月、「おめでとう！吉田寮ほぼ 100 周年祭」が開催された。何故「ほぼ」なのかと言えば、その時点で 97 年目だからである。寮に居る者と、かつてこの寮に居た者と、初めて寮に触れる者と、それらの垣塙と化し、約二週間の祭りは完遂された。その祭りの発起人となったのは、「こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会」である。

一昨年 10 月 30 日、天啓を受け、私は「こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会準備会」を立ち上げた。当初定めた最低人員数が確保されたため、即日、準備会は解散、本会の結成と相成った。

「何実(なにじつ)」と呼ばれるその団体は、この吉田寮の建物を補修して、後に残すために、もちろん、今この時、私たちが住み続ける、様々な時を過ごし続けるためにも、同好の士が寄せ集まって活動を続けている。

何のことは無い。私は君をこの団体に誘っているのである。

さて、天啓とはつまるところコップの水である。ポタポタと、時に勢いよく注がれた水が、本人の気付かぬうちに充ち満ちて、パッと溢れ出した瞬間に、人はその雷撃に貫かれるのである。2003 年に入寮して、毎日寮の空気を吸って、様々な活動に身を投じた私であるから、そのいなつるびは、私を撃ったのだ。

後にも述べるが、君は幸運である。何故ならば、既に何実が存在しているからである。君が天啓を受けるまでも無く。いうなれば既に先行研究は行われている。何実に参加するのもよい。何実を相対化し、君の生に活かすもよし。ともかくも確固たる目標を掲げ何実が存在している。

自分の思いを大切に、それを人に伝えて、形にしようとするのが、どれだけ骨の折れる作業か。その過程で人の思いに触れ、形を変えていく、深化されていく考えに不断のアップデートを加え続ける。それもまた、難し。只生きていだけならどちらとも必要のない作業である。しかもそれが、学生寮の建物を残すためだとしたら。

知ったふうの大人達は私たちを見て、「青春」とか言うかもしれないが、それは敗者の論理である。「そうすべし」と思ったならば、「そうなるべき」で、そのために行動を起こせない者に、何の学が成るか。君が大学で学問をする気なら分かって然るべきだ。

私は何実を生み出した。それが今に繋がる寮内の大規模補修の気運の高まりの起爆剤となった。そういった気運の昂揚はこれまでも幾度かあったが、もしかすると、これが最後かもしれない。このタイミングで、何実に関わることが出来るというのは、君の人生にとって、大いなる好機である。この意味でも君は幸運であり、すでに祝福されている。

この建築の表層を撫でるだけの莫迦に成るか、自らの耳目でその深淵を感じ取り、骨肉とするか。その選択権は今、当然のこととして君に託されている。

で、あるならば、やはり君は何実に入るのがよろしい。

私はこれからもその名の通り、退くことも逃げることもせず、この道を歩いていく所存である。君とは春に出逢うだろう。100 周年目の秋は、すぐそこで待っている。

2010/02/21 晴天

こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会はメンバーを募っています。入会に際して、何らの資格も技能も必要ありません。寮生である必要も当然ありません。

こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる
実行委員会のサイト <https://sites.google.com/site/nanijitsu/>

「おめでとう！吉田寮ほぼ 100 周年祭」のサイト
<https://sites.google.com/site/yoshihobo100/>